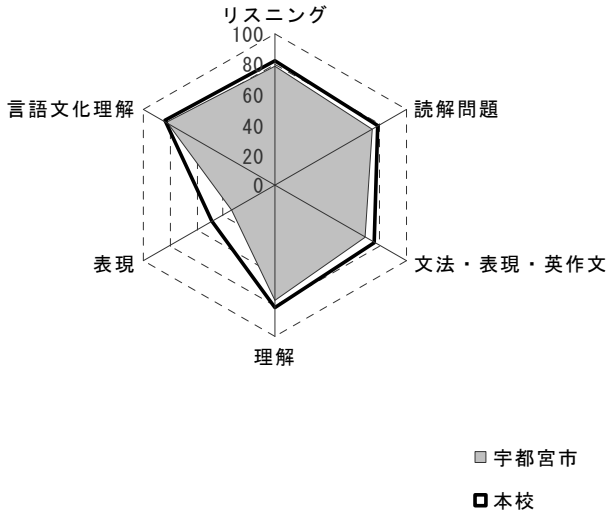


1 学年英語

1 結果

(1) 領域別・観点別平均正答率（宇都宮市と本校の状況）

■平均正答率

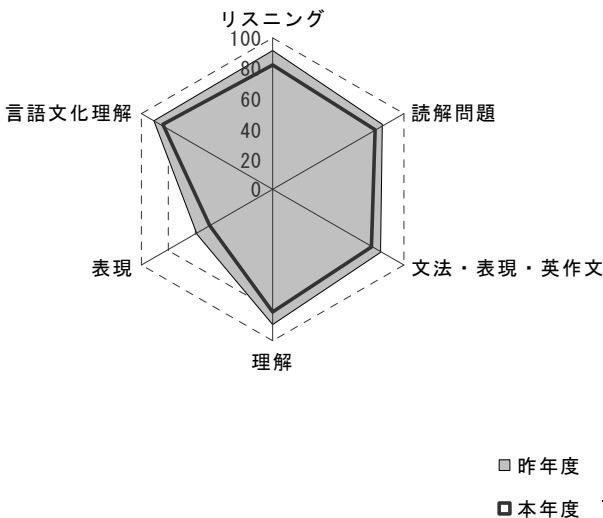


		宇都宮市	本校
領域別	リスニング	78.3	82.3
	読解問題	73.5	78.3
	文法・表現・英作文	68.6	74.5
観点別	理解	76.8	81.0
	表現	33.0	48.2
	言語文化理解	82.0	84.4

受検人数	宇都宮市	本校
	3659 人	200 人

(2) 領域別・観点別平均正答率（平成18年度と平成17年度の状況）

■平均正答率



		本年度	昨年度
領域別	リスニング	82.3	91.9
	読解問題	78.3	84.5
	文法・表現・英作文	74.5	81.8
観点別	理解	81.0	89.6
	表現	48.2	58.2
	言語文化理解	84.4	90.6

受検人数	本年度	昨年度
	200 人	193 人

※平均正答率の状況から、今後指導の重点を置くべき領域や観点を明らかにし、指導の工夫・改善を図っていきます。

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
リスニング (82.3%)	正答率は80%を超える良好な結果を収めている。昨年度の本校と比較すると約9.0ポイント下回るものの、市全体の平均点が低下したため、昨年度と同様に市の平均を4.0ポイント上回る結果となっている。	授業中に聞くことや話すことに関わるコミュニケーション活動を多く取り入れ、英語の音声に十分慣れるようにさせたい。
読解問題 (78.3%)	正答率は昨年度より6.2ポイント低下しているものの市の平均を4.8ポイント上回っている。	特に1年生では、聞くことや話すことに重点を置いて指導してきたが、英語の長文を読解することに慣れていない生徒に対して、文字にも十分習熟するように多様な活動を通してバランスの取れた能力を育成していきたい。
文法・表現 英作文 (74.5%)	正答率は昨年度より7.3ポイント低下しているものの、市の平均を5.9ポイント上回っている。3つの領域中最低であるのは、表現に関わる問題の正答率が低いためと考えられる。	文法や語彙などを理解したり覚えたりするための学習が十分でないと考えられる。大きくなりつつある個人差にも対応しながら、実際に言語材料を用いてコミュニケーションする活動とともにドリル的な課題も与え定着を図っていきたい。